

教育における最大の課題は、高校教育にある

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も開倫塾の時間をお聴き頂きありがとうございます。2週間程前になりますが、11月7日の月曜日、日刊工業新聞の全国紙面にある「私の主張」というコーナーに、取材を受けた私の記事が掲載されていました。今回は、そのことについてお話をさせて頂きたいと思います。

2時間程取材を受け、記者の方に、「何か主張したいことがありましたらおっしゃって下さい」と言われましたので、私は学力低下を阻止して頂きたいと述べました。

教育における最大の課題は、高校教育にあると私は思います。先週あたりから高校1年生の起こした大きな事件が2つ報道されています。1つには規範意識の問題がありますが、あと1つは学力の問題があります。高校生の74%は、高校卒業後に大学・短大・専門学校・予備校に進学します。予備校に進学するというのは適切な表現ではないかもしれませんが、予備校で勉強するわけです。ということは、4人に3人は高校卒業後に上の学校に行く、もしくは上の学校へ行くために勉強するということです。これが実態です。

問題は、74%の高校生が進学するにもかかわらず、進学先での勉強や研究になかなかついていけない学生が数多くいることです。これが日本の教育における最大の課題で、日本の教育の失敗であるとまで言われています。言い換えれば、大学の大衆化、大衆化するのはいいのですが、その実態には大変厳しいものがあるということです。大学での勉強や研究についていけないのはなぜかといいますと、原因は高校在学中にあります。今の高校生は、学校では勉強しているかもしれませんが、学校以外ではほとんど勉強していません。ある統計によりますと、およそ8割の高校生が、学校外では予備校や学習塾での勉強も含めて1時間半以内しか勉強していません。月曜日から金曜日までの統計です。その8割のうちの5割が勉強時間0分、およそ1割が30分、およそ1割が1時間、およそ1割が1時間半ということです。これで高校の勉強が十分に身につけばよいのですが、高校では中学校と比べてはるかに高度な勉強をしますので、一般的には未消化、ほとんど分からないままで高校を終わってしまいます。そして、そのまま上の学校に進むのですから、問題は深刻さを増すわけです。その結果、上の学校での勉強についていけなくなります。ご両親は何百万円というお金を出して大学等に進学させるわけですが、学力が身に付いていなければ当然、就職もなかなかうまくはいかず、フリーター

やノートになってしまう方もいます。

では、どうしたらよいかというと、私は、高校・大学両方の先生方に立ち上がってもらう以外にないと思います。大学入試で難しい試験を通過した人はまだよいですが、最近は推薦で入学するケースが増えています。この推薦入学の方が極端な学力不足で進学するわけです。推薦入試は、夏頃から始まり、11月中旬頃にはほとんどの方の入学が決まります。ということは、決まる前もほとんど勉強せずに過ごし、合格が決まってからも卒業まで遊びほうけてしまうということになります。これは本当の話です。

そこで、私が提案したいのは、3月31日までは在学する学校に責任があるわけですから、進学する大学・専門学校等が決まった生徒一人一人に、高校の担任の先生や進路指導の先生は適切な指導をすべきだということです。ただ高1～高3の学習内容を復習するのではなく、進学先が決まっているのですから、そこで必要とされる基礎能力で生徒が不足していると思われるテーマを個別に指導したらよいと思います。例えば、環境関係の学部に行くのに地学をまったく学んでいない、法学部や経済学部等の社会科学系に進学するのに世界史や日本史や政治経済等をまったく選択していないということは、学問の基礎知識が無いということです。つまり、中学の学習レベルしかない学生に大学の授業をすることになるわけです。中学のレベルから教えて頂ければよいのですが、そんなことをしてくれる大学の先生はいません。これは、教えなかった高校に責任があるのですから、高校がしっかりやってほしいと思います。

私の提案は、3月31日まで在学する高校で責任を持って不足する学力を補ってもらいたい、さらに大学には入学式までの期間に合格した学生を対象に事前教育をしてもらいたいということです。大企業が内定を出した大学生に入社前の課題を出すのと同じように、合格を出したからには大学にも責任があるわけですから、是非行って欲しいと思います。経営上、学力不足の人を大学生にしてしまった責任は大学にあるのですから、学生を一定の学力レベルにまで引き上げる組織を必要とします。そこで、これから展開される大学の講義に耐えられないと判断したら、入学を許可しないで、あるいは、いわばモラトリアムといいますが、1年もしくは2年間、学力が身に付くまでは入学は許可したが授業を受けさせないという期間を設けて、もう一度試験をしてもよいと思いますね。

このようなことをして学力不足の大学生・短大生・専門学校生が出ないように、高校・大学が責任を持って足りない勉強をさせてはどうかというのが私の提案です。もちろん、生徒が自分自身で行うのが一番よいのですが、勉強をしなかった生徒が自分一人ではできるとは考えられませんので、高校と大学が責任を果たす、このような趣旨のことを1月7日の日刊工業新聞に提案させて頂きました。是非、皆さんにもお考え頂ければと思います。